

藩主の温泉であった指宿

指宿には、1,000 を超える源泉があり、日本有数の温泉密集地である。指宿温泉には、さまざまな種類の温泉のほか、世界的にも珍しい砂蒸し風呂（砂むし温泉）がある。「指宿」という地名が、"泉質の豊富な町"を意味する古い地名に由来すると考えられているのも不思議ではない。

これほど多くの天然温泉が存在するのは、主に指宿が火山地帯であることに起因する。指宿は、約 10 万年前に起きた大噴火の名残である阿多カルデラの中にある。このカルデラには、6,300 年前の大噴火でできた小さなクレーターがいくつも点在している。そして、街のシンボルである円錐形の開聞岳は、活動中の玄武岩成層火山である。複数の火山を生み出したのと同じ熱と圧力が、ミネラル豊富な地下水を地表に沸騰させ、何世紀もの間、人々はそれを入浴や料理にも使ってきた。

歴史的な記録によれば、指宿は少なくとも 1500 年代初頭には温泉地であった。日本を訪れた最初のヨーロッパ人の一人であるポルトガルの商人、ジョルジュ・アルヴァレス（1521 年没）は、1546 年の『日本事情報告』の中で指宿の温泉について言及している。1600 年代には、島津家の領主が指宿に別荘を建て、指宿の温泉を利用した。

ある大名が、地元では殿様湯として知られる入浴施設を設立した。、1831 年に建てられ、
現在も 2 つの姿で残っている。殿様湯を囲んでいた別荘は失われてしまったが、当時の浴槽
やタイル細工の一部は指宿市指定文化財として残されている。また、隣接する公衆浴場では、
かつて殿様が楽しんだのと同じ湯に浸かろうと、多くの湯治客が訪れている。

指宿は温泉天国である。殿様湯のような歴史ある温泉も、ヘルシーランド玉手箱のようなサウ
ナやプールを備えた新しい施設も、広い海辺の景色も、緑豊かな山間の東屋も、透明な塩
化物泉も、刺激的な硫黄泉も、指宿にはどんな人でも浸かれる温泉がある。